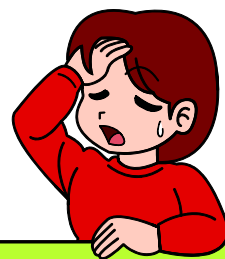


発行：はつらつ編集局
 発行日：平成 26 年 8 月 1 日
 発行人：吉田 秀明
 編集人：はつらつ編集委員
 お問い合わせ：0135-23-3126



研修医リレーコラム63 「“めまい”について」



「すべて診る医療」を初めて経験し、濃厚で充実した日々でした。先生、コメディカルの皆様、そして患者さんに感謝しております。

診療していて多く出会った「めまい」について今回は若輩者ですが医師の立場からどのように診察しているのか紹介したいと思います。すこし難しいですがご自身のめまいに関しての理解の一助になれば幸いです。

めまいには、①ぐるぐる回る、景色が流れるといった**回転性めまい**と②ふらふら、ふわふわする**動揺性めまい**と③風呂上がりの気が遠くなるような、意識を失いようになるような**失神性めまい**の3つに簡単に分けられます。はっきりしないこともあります。

患者さんの診察をするときはまず**失神性めまい**を調べます。具体的には脱水・貧血・出血がないか、不整脈など心血管系の異常がないかを採血や心電図検査にて危険な状況にないか調べます。そうでなければ、排尿、排便、咳のときに起こる**状況性失神**あるいは恐怖、精神的ショック、痛みによって起こる**迷走神経性失神**や起立時におこる**起立性調節障害**が考えられます。

次に、**耳の症状**があるか、つまり耳鳴り、難聴、耳閉塞感があるかを調べます。耳鳴りが強く、急速な難聴があると**突発性難聴**を疑い2週間以内のできるだけ早期治療が必要です。1～2時間持続する回転性めまいを繰り返し、耳の症状がある場合は**メニエール病**が疑われ対症療法から始めます。

耳の症状がないとき、**脳出血・梗塞**をしっかりと検査しなくてはなりません。高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙のある人は危険です。突然の頭痛・頸部・後頭部痛がないか、しゃべりにくい、のみこみにくい、物が二重にみえる、半身のしびれ、脱力、顔、口の周りのしびれ、片側に倒れそうになるなどをしっかりと調べます。怪しいときには脳 CT/MRI 検査をします。

最後に、**頭を動かしたときにめまいがあるか**を調べます。「朝ベッドから起き上がるときめまいがするが午後になるとよくなる」、寝返りでめまい、じっとしていると1分間くらいで治まるが、頭が動くと再発する、以前にもあったが数日で治った。このようなとき **BPPV** という良性の病気を疑います。これは体の回転を感じる耳の中にある三半規管という部分によるめまいであり、難治性のこともありますが、めまいを繰り返すうちに多くは自然軽快することが多い病気ですので心配いりません。しかし、一定の頭位で1分以上じっとしていても持続する場合は**脳梗塞**が疑われます。

その他として血糖異常、甲状腺疾患、低酸素、心因性、過換気症候群あるいは高齢によるものも考えられます。

しかし、ここまで調べてもめまい以外はっきりしない場合、いわゆるめまい症として症状が軽ければ自宅で様子をみたり、重ければ入院して様子をみます。一度で診断できない事も多く、その場合経過を見ることで診断をつけることが大切です。また、耳鼻科などで精密に検査しても 20%前後に診断名がつかないという事実もあるので、症状を緩和させるような薬を使ったりしながら定期的に外来で診ていくことになります。

専門用語が多くなってしまいましたでしたが診療の一旦でした。一ヶ月本当にありがとうございました。

(参考文献 内科外来マニュアル 医学書院) 小樽市立病院 高橋 宗志

余市協会病院祭り



【日 時】平成 26 年 9 月 12 日 (金)
 18:30~19:20
 【場 所】1F ロビー
 【内 容】紙きり芸・花火・他



救急件数 (7月)

外来受診299件 うち入院63件
 救急車来院95件 うち入院46件

余市病院では昨年度より、病院前広場の旧花壇を利用して野菜作りをはじめました。吉田秀明院長が中心となりはじまった取り組みで、2年目となる今年はミニトマト、キュウリなど6種類の野菜が小さな農園で育てられています。

野菜の成長とともに農園まで歩くリハビリを楽しみにされる患者様も増え、中には積極的に雑草とりをして下さる方もいます。また余市町と仁木町は農家が多いという土地柄、患者様の中には「この枝はとった方がいいよ」「今ぐらいの時期なら、水はもう少し多めに上げた方がいいね」など、職員達が「さすがプロ!」と感心するアドバイスを下さる患者様も少なくありません。実った野菜は患者様と職員で味わったり、調理リハビリの材料になったりしています。

単調になりがちな入院生活ですが、農園の野菜の日々の変化とともに季節の移り変わりを楽しんでいただけるものとして、またこの地域ならではの取り組みとして、今後も続けていければ幸いです。



病院正面玄関前農園

